

平成27年度 第3回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成27年11月25日(水) 午後4:00～5:00

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 清水岩夫
委員 田中妙子
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員
教育部長 丸山 信一
子ども育成課長 常田 新司
学校教育係長 丸山 真央
学校教育係 高橋 健一

5 会議の経過及び発言

1 開 会

2 あいさつ

(足立市長)

今日は第3回の総合教育会議です。教育大綱の関係ですが、だいたい今日で詰めていければと思っております。既に何回かご意見をいただいたわけですが、今回もよろしく願います。

3 議 題

1) 教育大綱(教育振興基本計画)の策定について

(丸山教育部長)

第2回の会議の後、校長会などに話をし、たたき台から何回か打合せ等をさせていただいております。その辺りを踏まえ、現時点での案ということで説明させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

議題について、資料1ページから7ページを事務局子ども育成課長より一括説明。

(足立市長)

まず、キャッチフレーズの部分からですが、案を作っていただいておりますがそれぞれご意見あればお願いいたします。どうでしょうか。

（清水職務代理）

どれもいいと思います。また、こういう問題なのかわかりませんが、「未来に拓け子ども達」の部分で、「未来に」なのか「未来を」なのかという点が気になります。「未来に」だと何を拓くのか。「未来を」というのは自分たちの未来を切り拓くという立場だと思います。未来を切り拓いていく子ども達を育てていくのではないかと。

（足立市長）

おっしゃるとおりですね。「に」と「を」ではニュアンスが違いますね。

（田中委員）

字句に関することは清水先生がおっしゃったような方がいいと思います。それから、4つの内では一番下がいいと思いますが、「たくましく育つブナの木のように」だと少し弱いかと。例えば「力蓄え大地に根を張るブナの大木のように」っていうを考えてみました。「木のように」だと少し優しすぎるかなと。

（西条委員）

私はこの4つの中では1番がいいと思っています。「雪解け」という部分に飯山らしい部分があるかなと思います。「雪が解けて春になる」というのが自分の中では拓けるイメージがあるので。

（樋口委員）

私は「たくましく育つ」という一番下のがいいのではないかと思います。

（長瀬教育長）

「たくましい」という言葉が大綱の中では何回も出てきます。これは外してはいけないと思います。たくましく、この後をブナの大木とするか。「育つ」というのはあまりいらぬような気がします。「力蓄え、たくましくブナの大木のように」というのはどうかと。

（清水職務代理）

私もいらぬと思います。

（田中委員）

前の句読点を取り、「力蓄えたくましく、ブナの大木のように」がいいのかなと。

（足立市長）

先ほど田中委員から「大地に根を張る」といった語句もありましたが、どうでしょうか。

（田中委員）

先ほどのでいいと思います。

（足立市長）

ということで、皆様よろしいでしょうか。冒頭のキャッチフレーズは、「未来を拓け子ども達 力蓄えたくましく、ブナの大木のように」ということで。

それでは次ですが、5 ページまでの内容について、どうでしょうか。これも何回か見ていただいておりますが。

（田中委員）

2 ページの策定の趣旨の部分ですが、その中の下の部分で、「この三つを幼児期から高校卒業までに身につけ…」この部分については子どもサイドの目線ですが、「社会に送り出せる人間力…」は大人の目線だと思います。子どもの立場で表現していくのであれば「送り出す」という表現よりは「旅立つことができる」や「羽ばたく」といった表現の方がいいと思います。

（足立市長）

では、今の部分は「送り出せる」ではなく「羽ばたくことができる」でよろしいでしょうか。他にどうでしょうか。

（清水職務代理）

2 段落目の『飯山市第5次総合計画』の部分は5行1文なので、短くした方がいいと思います。句読点をどこかに入れた方よいのでは。大幅な修正が不可能であれば、「…三つを掲げてきました。また、…」とかですかね。

（田中委員）

今の部分で、「…それを支えるための行政支援が大切です。」の「それ」というのは、その上の部分を指しているので、「それ」ではなく「それら」にする方がいいと思います。

（足立市長）

3 ページ目の【飯山市総合計画基本構想】の●の一番下、は「…共に生きることができる社会の実現」というふうに「の」を入れた方がいいのではないかな。その下の教育振興基本計画でも一番下に「の六項目を具体策としています。」とあるので。そろえた方がよい。

（清水委員）

今こういうことを申し上げるのは申し訳ないのですが、「飯山市総合計画基本構想」はいつのものですか。継続中ですか。そうするとこれを受けているということですね。これから新しく教育大綱を作るにあたり、今までの計画の中に組み込むということでもいいのでしょうか。

（丸山教育部長）

教育振興計画でよいと判断すれば、教育大綱を策定しなくてもよいということになっています。教育振興計画は法律に基づいて策定しておりまして、10 年間で計画がありましたので、今はその

途中にあります。今策定している大綱は、教育大綱であり、教育振興計画であるという両方の性格を持っています。

（清水職務代理）

こういうことを申し上げているのは、似たような名前の計画がたくさん出てきているのでその部分がわかりにくかったためです。

それでは、細かいことですが、「社会の実現の推進」ではなく、「社会の実現を推進」ではないかと思います。

（足立市長）

「推進」は、なくてもいいのではないかな。

（清水職務代理）

もっと言うと、「を掲げています」は1文で続くのではなくて、間をあけるとか、改行するとかが必要だと思います。下の「●知・徳・体の調和のとれた…児童生徒を目指し」の「を目指し」にも同じことが言えると思います。

（足立市長）

そうすると、上の「…社会の実現の推進」までが1文なのではないかと考えられる。行頭をずらして体裁を整えるべきかな。

（常田子ども育成課長）

改行するなどして、体裁を整えたいと思います。

（足立市長）

それでは3ページ目はよろしいですか。一番下の5つの目標とかもあります。

（清水職務代理）

「教育力の向上」という言葉がいくつか出てきますが、「教育力を高める」というのはどういう意味か。

（足立市長）

子どもに対する教育力を高めるという意味かな。また、一番大事な6ページ以降についてもどうでしょうか。

（清水職務代理）

いくつか挙げてよろしいでしょうか。まず、4ページ。(1)～(5)それぞれの一番下。これはタイトルに書いてあるので、「…柱の一つとします」というのは必要ないと思います。それから、(3)国際感覚というのは、外国からの来訪者や英語教育とかそういうことだけではなくて、これからの社会を生きていくうえで大事な資質だと思います。それは英語を話せる、話せないとかそういう

問題ではなくて、例えば視野を広げるとか、世界で通用する学力だとかそういうことも触れてもらいたいと思います。

(長瀬教育長)

その部分については、「新しい時代に生きる力を育てる」に含まれておりますので、ご理解をお願いします。

(清水職務代理)

それから、6 ページの具体的施策の中に「教師の指導力向上」を単語だけでも含めたいと思っております。

(常田子ども育成課長)

最初は「資質向上」という表現でしたが、校長会での議論の際に「そこまで求められないのではないか」という意見があり今の表現に変更しました。

(清水職務代理)

それでは次に、6 ページの2 番目に「ふるさとを知り、ふるさとを…」とあります。4 ページの(2)にあるように「ふるさとに愛情と誇りを持つこと」で本当に飯山市に住み続けてくれるのかどうか。願いとしてはそうですか。これが人口減少の歯止めになるのかどうかということです。そういうことを打ち出して、市民に「何を言っているんだ」と言われたいかということです。それよりも例えば「家庭教育の充実」などに触れた方が良いのではないかと思います。それから、5 ページの下画像はどういう意味があるかどうか。

(長瀬教育長)

この画像で本当に良いかということですね。

(清水職務代理)

そうです。なくてもいいのではないかと。それから6 ページにはやはり「家庭教育の充実」という言葉があってもいいのではないかと思います。また、2 の具体的施策の中に「ふるさとを学ぶプログラム」とありますが、このプログラムとは何でしょうか。

(長瀬教育長)

ふるさと学習のカリキュラムを昔作りましたよね。それをベースにしてとにかくやってほしいというのが根底にあります。

(清水職務代理)

わかりました。それから次ですが、6 ページ右側のところの実現したい目標なんです、数値の説明がありましたが、そのためにどういう取り組みをしていくかが大事であり、図書貸し出し数については、目指さなければならない目標なのかどうか疑問です。

(長瀬教育長)

具体的な数値がないとなかなか現場っていうのは動かないからそれで示してあります。

(田中委員)

ここに数値を示すのはいいんだけど、「学校図書」にこだわるのがいかなものかと思います。家の孫なんかは、市立図書館の本をよく借りてきています。1回に10冊借りられたりもするので。

(長瀬教育長)

市立図書館には、在学中はあまり子どもが行っていない。また、この項目を挙げたのは、学校図書館の充実をしたいという思いが背景にあります。

(清水職務代理)

教育大綱は今いろいろなところで作っています。市長部局で作ることになっていますが、現実はどこも教育委員会事務局が中心になって作っている。作らざるを得ないと思います。それが実態だと思います。そういうところの話を聞くと、行政サイドの表現よりも教育的な表現の方が私はいいと思います。

(長瀬教育長)

それはまた、十分考慮しながらやっていくということでご理解をお願いします。この大綱ができたことで、子どもたちや環境面で少しでも良くなる、家庭でも子どもたちのことを考えてもらうようにしてもらいたいというのが一番の願いですので。

(清水職務代理)

それは充分わかります。

(長瀬教育長)

それでは検討して、もう1回やりましょう。

(清水職務代理)

数値自体は反対しておりません。でもここに数値を出すには、どういう指導計画があるからこういう数値になるんだという見通しを私たちは持つべきだと思っています。そういう見通しを具体的施策等に触れていかないと、数値が独り歩きしてしまうのではないかという心配をしています。

(長瀬教育長)

この数値を基に、現場ではどうやっていくか考えていく、ということも一つのやり方だと思います。これを校長会に出したというのも新年度に向けてこういうことも頭に入れてやってほしいという願いもあります。もちろん清水先生の言うように計画から数値を積み上げていくことも大切ですので、両方兼ね合わせながらやっていければと思います。

(清水職務代理)

それでは次ですが、6ページの「ふるさとを知り、ふるさとを愛する」の部分で具体的施策の中には大事な「自然分野」が落ちている。入れた方がいいと思います。

(足立市長)

他にもご意見どうでしょうか。

(樋口委員)

私は、これはこれでいいと思うんです。これをどうやるか。また、この目標を達成した後はどうなっているのか。それが一番大事だと思っています。なのでこの部分をどうやって詰めていくのか、また市民みんなで共有していくのか。社会・家庭・学校が一体となって取り組めるかどうか、そちらの方が私は関心が高いです。

(田中委員)

学校の先生方に直接どういう伝えていくか。資料を配るだけで終わりにならないためにどうしたらいいかを次回にぜひ話し合いたいです。

(丸山教育部長)

これからどうするかというのは事業レベルと考えています。例えば学力の面に関しては全国学テやC R Tなどそういうものがあります。この大綱の次にはそういう部分が当然あります。ですが、それらを全てこの会議の中に入れていくことについては、市長をはじめ委員の皆様には膨大な時間をかけて議論していただくことになります。それは現実的にはなかなかできないのではないかと整理しております。この会議では方向性などについて議論していただき、具体的な部分については次の問題としていただきたいと思います。

(長瀬教育長)

あと、各校にはすばらしいグランドデザインがありますよね。それもこの大綱を踏まえて策定してもらいたいと思っています。

(田中委員)

私は細部に渡ってこの場で議論することは不可能であろうと考えております。ただ、学校のグランドデザインは、こういった計画等を踏まえて作るべきであり、作っていると思います。今までは定例校長会等で長瀬教育長から各校長にこういったことを伝え、各校長がそれぞれ各職員へと伝えていたと思います。ですが、新しくできる教育大綱は、校長を通してではなく、全職員に直接伝えるような、それは資料の配布だけではなく、長瀬教育長や足立市長が全職員のいる場で思いを伝える、そんな機会が出来たらいいなと思っております。

(長瀬教育長)

そうすることの良し悪しというか、課題がまたあると思われますので、十分検討させていただきます。

(足立市長)

まずは、やはり目標を掲げるということが最初のステップだと思います。また、全てを一度にクリアするのはとても大変だと思うので徐々にクリアしていけばと思っております。

(丸山教育部長)

それでは、事務局でいただいた意見をまとめさせていただいて、検討いたします。

2) その他

4 その他

5 閉 会

(足立市長)

それでは皆様、本日はここまでとさせていただきます。大変ありがとうございました。